

## 小項目ごとの検証・確認における論点整理

| 自己評価の区分 |                 | 判断の目安              |
|---------|-----------------|--------------------|
| IV      | 年度計画を上回っている     | 計画の実施状況が100%超      |
| III     | 概ね年度計画どおり実施している | 計画の実施状況が90%超100%以下 |
| II      | 年度計画を下回っている     | 計画の実施状況が60%超90%以下  |
| I       | 年度計画を大幅に下回っている  | 計画の実施状況が60%以下      |

## 公立大学法人岐阜県立看護大学

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証 |   |
|----------|--|--|----------|----------|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項<br>自己評価理由、課題及びその改善策   | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)   |
| 01       | <p>ディプロマ・ポリシーに示す能力を学生が確実に修得できるように、各学年終了時の到達目標の明確化に取り組む。</p> <p>平成29年度入学者の学修ニーズ及び資質を確認し、一年次の授業展開における課題を明確にする。</p> <p>看護専門職として主体的な自己を高めるための教養科目の充実を目指し、平成28年度に明確になった課題への対応策を検討し実施する。</p> | <p>4年間の段階別到達目標の明確化に向けて、平成28年度に引き続きFD研修会を開催し、ディプロマ・ポリシーに示す能力を確実に修得できるように、教育内容を点検し、学生の特性を踏まえた教育方法を検討した。</p> <p>入学直後に小グループ編成による学修ガイダンスを実施し、学生から本学入学の理由や4年間に学びたいことなどを聞き、学ぶことに対する考えや姿勢を把握し、教員間で共有した。</p> <p>学生が興味・関心に基づいて教養科目を選択できるように、複数履修者がいなかった2科目については、学生が授業の趣旨を理解できるように、科目名の変更およびシラバスの見直しを非常勤講師とともに行った結果、履修者が増加した。</p> |          |          | <p>卒業時の到達目標が非常に高い割合で達成できている。</p> <p>入学直後から教員と学生間で、きめの細かいガイダンスが行われた結果、26項目の到達目標がほぼ全項目でできていることは評価できる。</p> |
| 02       | <p>卒業研究における学生の思考過程に即した指導を各教員が行い、生涯学習の基礎としての教育を継続する。</p> <p>卒業時到達目標の達成状況を分析し、最終学年次の指導を改善する。</p> <p>学生及び教員による授業評価に基づく科目単位及び学科単位の改善措置の実施体制を継続する。</p>                                      | <p>学生は、卒業研究Iで実践した看護を振り返り、看護実践課題を明確にして、課題解決の取組みを計画し、卒業研究IIで実践し評価した。この一連のプロセスにおいて、看護職としての責任感の醸成と創造的な課題解決力の育成を目指して指導を継続した。</p> <p>卒業時到達目標（26項目）は、四年次の前期（7月）及び後期（12月）に達成状況を確認している。後期には</p>   |          |          |   |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証 |   |
|----------|---|--|----------|----------|---|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)   |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策   |          |          |   |
|          |   | <p>1項目を除く全項目で達成率が100%となった。また、学生がディプロマ・ポリシーを意識できるように、卒業時到達目標の達成度とディプロマ・ポリシーを照らし合わせて自己の学びと課題を確認するよう指導の充実を図った。</p> <p>学生及び教員による授業評価に基づき、科目単位には科目担当教員がシラバスの改訂を行い、改善措置や学生へのメッセージを学内に掲示し、学科単位では、教務委員会および教養・専門関連科目運営委員会において改善措置を検討する体制を継続した。</p>  |          |          |   |
| 03       | <p>本学看護学科の教育成果を確認し改善策を検討するため、新たに卒後10年以上となる卒業者を対象として質問紙調査を実施する。</p>                              | <p>卒業後10～11年の者(148名)を対象として実施した質問紙調査は62名(41.9%)から回答があり、回収率は、前回の卒業後10年以上者調査に比べて8.9%高くなった。</p> <p>勤務している者は86%であり、そのうち51%が岐阜県内で就業していた。本学科において育成を目指す能力のうち、「生活者としての人間に対する深い理解と統合的な判断力」をもち、人々のヘルスケアニーズに対応できる能力」は7割強、「主体的な自己を確立する能力と幅広い視野、複眼的な思考・判断力」「保健・医療・福祉領域の専門職や関係者とケアチームを組んで協働活動ができる能力」は約6割が大学時代に身についたと回答し、前回の卒業後10年以上者調査に比べ、身についたと回答したものの割合は多かった。</p> |          |          | <p>教育成果を確認する素晴らしい取り組みと評価する。今後も継続されたい。</p> <p>卒業後10年～11年の者へのアンケートは意味があると思われるが、卒業後5～6年の者へのアンケートも考慮されたい。</p> |
| 09       | <p>看護学科では、新設した推薦入試制度を評価・分析する。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れることのできる入学者選抜方法を実施し、研究科が求める人材を確保する。</p> | <p>看護学科では、平成29年度入試から開始した大学入試センター試験を活用した推薦入試B(定員10名、志願者数72名、受験者数72名、受験倍率7.2倍)を実施した。平成29年度入試に比して受験倍率は上昇し、制度運用に大きな課題はみられなかった。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れることのできる入学者選抜方法(学士課程卒以外の看護職者の出願資格の認定)を実施し、研究科が求める人材が確保できた。</p>  |          |          | <p>推薦入試Bで29年度入試に比して、受験倍率が上昇したことは、評価できる。</p>   |

| 通し<br>番号              | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |  | 評価委員会の検証 |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
|-----------------------|--|--|--|----------|-----|---------|-----------|----------------|-------------------------|-----------------------|---|----------------------|--|--|
|                       |  | 業務実績、特筆すべき事項   |  | 自己<br>評価 | 論 点 | 検 証 (案) |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
|                       |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |  |          |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
|                       | <p>入学者選抜方法改善に向けた基礎資料の収集と選抜方法の適切性の分析・評価を継続する。</p> <p>入学試験実施体制・成績管理方法について点検・評価を行い、改善・充実のための取組みを継続する。</p>   | <p>入学者選抜方法改善に向けて、平成28年度卒業者の選抜方法別卒業状況、免許取得状況および退学・休学状況を集計・分析した。</p> <p>確実に作問および入学試験が実施できるように、試験問題の内容および形式を点検するためのチェックリストを作成し、問題点検の度に確認した。</p> <p>看護学研究科では、問題・解答用紙作成までの課程を確認し、適正執行できるように努めた。</p>   |  |          |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
| 10                    | <p>オープンキャンパス、大学ホームページ、教員出張方式による大学説明会及び模擬授業、大学案内冊子の刊行等を計画的に実施するとともに、実績等から今後の方向性を検討する。また、改訂後の大学ホームページの閲覧状況確認等による点検を継続する。</p> <p>毎年度入学者に実施してきた「本学選択に影響を与えた情報媒体」調査及びオープンキャンパス参加者アンケート等を継続し、効果的な方法を採用する。</p> <p>将来の受験者世代やその親世代を想定して、看護や本学への関心を高めてもらうための方策を検討する。</p> | <p>本学で看護を学ぶことの魅力を伝えるとともに、入試制度の周知を目指して、オープンキャンパスの開催、大学ホームページの運用、大学案内冊子の刊行および出張式大学説明会等を実施した。出張式大学説明会・模擬授業は、全教員の協力を得て対応した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス</td> <td>H29. 8. 6～8. 7</td> <td>971 名<br/>(H28:1, 087 名)</td> </tr> <tr> <td>出張式<br/>大学説明<br/>会・模擬授業</td> <td>H29. 4～H30. 3<br/>54 件 (高校 24<br/>校・岐阜県看護協<br/>会等)<br/>(H28:69 件)</td> <td>864 名<br/>(H28:946 名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>本学選択に影響を与えた情報媒体調査の結果、大学ホームページ、大学案内冊子の影響が大きいことを確認したため、タイムリーに情報を公表できるように毎週大学ホームページの掲載内容を確認した。また、高校生の関心やわかりやすさを考慮して、大学案内冊子の内容の充実を図った。</p> <p>平成30年度入試では、推薦入試A・Bおよび一般入試(前期日程)において、志願者が増加したことから、今後も前述の取り組みを継続する必要性を確認した。</p> <p>看護や本学への関心を高めてもらうための方策の一つとして、羽島市教育委員会が企画する「スーパーサイエンスセミナー」を本学で開催し、衛生的な手洗い、ボディメカニクスおよび血圧測定の話義・演習を行い、市内中学生1</p> |  | 内容       | 開催日 | 参加者数等   | オープンキャンパス | H29. 8. 6～8. 7 | 971 名<br>(H28:1, 087 名) | 出張式<br>大学説明<br>会・模擬授業 | H29. 4～H30. 3<br>54 件 (高校 24<br>校・岐阜県看護協<br>会等)<br>(H28:69 件) | 864 名<br>(H28:946 名) |  | <p>オープンキャンパス参加者が28年度に比べ、減少しているため、努力されたい。</p> |
| 内容                    | 開催日  | 参加者数等  |  |          |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
| オープンキャンパス             | H29. 8. 6～8. 7   | 971 名<br>(H28:1, 087 名)  |  |          |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |
| 出張式<br>大学説明<br>会・模擬授業 | H29. 4～H30. 3<br>54 件 (高校 24<br>校・岐阜県看護協<br>会等)<br>(H28:69 件)  | 864 名<br>(H28:946 名)   |  |          |     |         |           |                |                         |                       |   |                      |  |  |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |   |
|----------|--|---|----------|----------|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)   |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |   |
|          | <p>看護学研究科については、専門職の生涯学習として大学院での学修が認識されるように、県内看護職者、卒業者及び学部生への大学院進学への働きかけを継続する。</p>  | <p>7名が参加した。</p> <p>「岐阜県看護実践研究交流集会」及び本学主催の「共同研究報告と討論の会」、オープンキャンパスにおいて、本学の生涯学習支援事業を説明し活用を促した。また、卒業者・修了者の就業が多い病院の看護部との「人材育成に関する情報交換会」、「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」、県主催の各種研修会にて、大学院での学修を勧めた。さらに、同窓会と協働し「卒業者交流会」「同窓会総会」において、本学卒業者の大学院進学に向けた働きかけを行った。また、学部学生に対しては、本学修了者の活動を掲示物で紹介し、大学院進学が促進されるよう働きかけを行った。</p>   |          |          |   |
| 19       | <p>在学者と卒業者との交流会を開催し、卒業者から進路選択や看護実践活動の実際を聴くことによって、学生が自身の将来を描き、進路を考える機会とする。</p> <p>学生が就職情報を閲覧し、進路を選択できるように就職進路支援室及び学生自習室の充実を継続する。</p> <p>県内施設及び卒業者の協力を得て、就職ガイダンスを継続実施し、学生が看護の仕事の本質や魅力を確認できるよう支援する。</p> | <p>学生が看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えることができるように、看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業者との交流会を開催し（11月、一～三年次生204人参加）、80%以上の学生が有意義だったと回答した。</p> <p>就職進路支援室は、学生が就職情報を十分閲覧できるようにスペースを増やし、学生間での情報交換ができるようにホワイトボードを設置するとともに、卒業者のメッセージを掲示したところ、約8割の学生が支援室を利用しており、約半数の学生が先輩の就職試験記録等を活用していた。</p> <p>県内医療施設等（17施設）の参加を得て、看護部長や卒業者等による全体説明会と個別相談会を開催した（1月、二・三年次生85人参加）。</p> <p>また、8月には、二年次生の希望者を対象として、県内の4病院を2日間かけて訪ねる「病院を知るプログラム」を実施し、延べ45人が参加した。</p> <p>&lt;平成29年度就職状況及び国家試験合格率&gt;<br/> 卒業生数 79名</p> |          |          | <p>有意義な卒業者との交流会を企画できたことは評価できる。</p> <p>国家試験合格率は全国を上回っており、就職対策も様々な努力がみられる。引き続き、県内就職率の確保をお願いし、ますますの工夫を期待したい。</p> |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |         | 評価委員会の検証  |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
|----------|--|--|---------|---|---------|---------|----------|---|----|----|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|---|----|----|---|---|----|--|-----|-------|-----|--------|-------|-----|-------|-------|-----|--------|-------|--|--|--|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項   |         | 自己<br>評価  | 論 点     | 検 証 (案) |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |         |   |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
|          |  | 就職者数 79名<br>県内就職者数 43名<br>県内就職率 54.4% <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>看護<br/>師</th> <th>保健<br/>師</th> <th>助産<br/>師</th> <th>養護<br/>教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>28</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>29</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table><br><国家試験合格率(平成30年3月卒)> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100.0%</td> <td>96.3%</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>89.9%</td> <td>85.6%</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100.0%</td> <td>99.4%</td> </tr> </tbody> </table> |         | 看護<br>師   | 保健<br>師 | 助産<br>師 | 養護<br>教諭 | 計 | 県内 | 28 | 7 | 5 | 3 | 43 | 県外 | 29 | 4 | 1 | 2 | 36 | 計 | 57 | 11 | 6 | 5 | 79 |  | 合格率 | 全国合格率 | 看護師 | 100.0% | 96.3% | 保健師 | 89.9% | 85.6% | 助産師 | 100.0% | 99.4% |  |  |  |
|          | 看護<br>師  | 保健<br>師  | 助産<br>師 | 養護<br>教諭  | 計       |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 県内       | 28   | 7  | 5       | 3   | 43      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 県外       | 29   | 4  | 1       | 2   | 36      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 計        | 57   | 11   | 6       | 5   | 79      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
|          | 合格率  | 全国合格率  |         |   |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 看護師      | 100.0%   | 96.3%  |         |   |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 保健師      | 89.9%  | 85.6%  |         |   |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 助産師      | 100.0%   | 99.4%  |         |   |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |
| 24       | 国内外の学会発表や学術誌等への投稿実績及び内容を各領域で自己点検評価し、領域及び教授会において研究の活性化及び内容の充実を図る。 | 研究活性化対策として、看護教育・看護実践に関する研究を学会や学術誌等に報告することを教員会議等で呼びかけた。その結果、紀要第18巻1号への掲載は、原著6編、研究報告4編、資料4編で総数14編となった。また全体として著書11、学会誌等への論文掲載23編(欧文掲載3編)、学術集会発表54編(欧文発表9編)、報告15(うち文部科学省科学研究費助成事業研究成果報告書1編)であり各領域による専門的な発表がなされた。また、これらの実績を各領域で自己点検評価し、自己点検評価委員会において領域を超えて共有した。<br>海外研修支援事業を活用して、2名が国際看護系学術集会において研究発表を行った。<br>・International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2017(平成29年7月9日～7月12日):米国(2名)。<br>さらに、科学研究費助成事業等によって、6名が海外の学術集会で発表を行った。<br>・TNMC&WANS International Nursing Research Conference 2017(平成29年10月タイ)(1名)<br>・ICN2017-Congress(平成29年5月スペイン Barcelona)(2名)<br>・The 43th Annual Conference of The Transcultural  |         | 研究の成果を上げていることは評価できる。引き続き、海外における研究発表等、取り組んでいただきたい。 |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |    |   |   |    |  |     |       |     |        |       |     |       |       |     |        |       |  |  |  |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |  |
|----------|---|---|----------|----------|--|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)  |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |  |
|          |   | Nursing Society (平成29年10月米国) (1名)<br>・ The Design and Analysis of Experiments (DAE2017) Conference (平成29年10月米国) (1名)<br>・ 64. Biometrisches Kolloquium (平成30年3月ドイツ) (1名)  |          |          |  |
| 25       | 教員各自の専門分野の研究を推進・発展させるために、文部科学省科学研究費補助金等への応募及び採択を支援するための研修等を継続する。              | 外部研究資金への応募の支援として、FD委員会が科研等申請計画書2事例を基に若手教員を対象にしたグループ討議を20名程度の人数限定にて計画し、9月に開催した。事前申請の21名が討議に参加した。科学研究費助成事業について平成29年度は基盤研究C8件、萌芽研究2件、若手研究B3件の13件が研究代表者として継続した。各種研究助成に関する公募情報をメールで29件提供した。  |          |          | 研究の成果を上げていることは評価できる。引き続き、科学研究費への応募及び採択への支援をしていただきたい。 |
| 26       | 共同研究事業及び看護実践研究指導事業の報告書をホームページ及び岐阜県立看護大学リポジトリ等を通して広く社会に公表し、看護実践研究の活性化を図る。      | 共同研究事業及び看護実践研究指導事業の報告書をホームページで公開するとともに、共有の一層の充実を目指し、岐阜県立看護大学リポジトリにより、社会に広く公表した。看護実践研究者の継続的育成の一貫として、大学院修了者に本学紀要への投稿を呼びかけ、修士論文の紀要への投稿が5編、掲載が4編、博士論文の投稿が2編、掲載が2編あり、看護実践研究内容の共有化が促進された。また、共同研究報告と討論の会(平成30年2月18日)の開催時に、看護実践研究の意義と方法論について概要説明を行い、特性を共有するとともに、看護系専門雑誌(「看護研究」医学書院)に「看護を変革する看護実践研究の可能性」を特集企画し、看護実践研究の基礎、教育方法、WBL&WBRの考え方、実践例等の9編を掲載(執筆者は全員本学教員及び大学院修了者)し、看護実践研究法の活性化に努めた。<br>※ 機関リポジトリ: 大学及び研究機関等において作成された論文等を保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫 |          |          | 研究の成果を上げていることは、評価できる。                                |
| 29       | 県内看護職者を対象にした看護実践に関する事業等の開催時に看護学研究科に関する情報を提供し、個別相談を行うと共に、修了者が職場で取り組む実践改革を支援する。 | 大学院研究科への進学促進のため、オープンキャンパス(8月)、「岐阜県看護実践研究交流集会」(9月)及び「共同研究報告と討論の会」(2月)において専用ブースを設置し、個別相談に応じるとともに、「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」(7月)、「人材育成に関   |          |          | 県内就職率を上げるために様々な取り組みを行っているが、数値目標を目指すために、さらなる努力をされたい。  |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |  |
|----------|--|---|----------|----------|--|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)  |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |  |
|          |  | <p>する意見交換会」(岐阜県総合医療センター、岐阜大学医学部付属病院、羽島市民病院) (2月)において、本学大学院看護学研究科の特徴・入試に関する情報提供を行った。また、本学大学院修了の専門看護師は14名(慢性看護5名、小児看護3名、がん看護6名)となっていることから、修了者が職場で取り組む実践改革を支援する目的で、看護実践研究指導事業として「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」の取り組みを開始した。グループインタビューでニーズを把握し、その結果をふまえて「専門看護師のキャリア開発-コンサルテーション役割から考える-」をテーマに研修会を開催した(県内専門看護師18名を含む看護職45名が参加)。</p> |          |          |  |
| 30       | <p>卒業生支援として、卒業1年目交流会、卒業2年目交流会及び同窓会との共催による卒業生交流会を開催し、実践経験に応じた手法を開発し、看護実践力と職場定着の充実を継続する。</p> | <p>卒業生支援として6月17日(土)に卒業1年目交流会及び卒業2年目交流会を開催し、それぞれ40名、20名の参加があり、現在の課題を共有するとともに自由な意見交換を行った。また、卒業年度を限定しない卒業生交流会・キャリアアップ研修会を学部同窓会と協働で11月11日(土)に開催し、卒業生25名の参加があり、がん就労支援に関する知識を深めるとともに卒業年度を越えた卒業生相互の交流を行った。開催状況をホームページ等に掲載した。</p>   |          |          | <p>大学の使命の一つである社会貢献を立派に果たしていることは評価できる。</p>            |
| 31       | <p>就職選択の基本である学生の主体的意思決定を支援すると共に、多彩に県内就業支援を促進する。県と協働で県内医療機関による就職ガイダンスを開催する。</p>             | <p>4月の年度当初に就職ガイダンスの日程を含め就職支援スケジュールを全学生に周知した。学部の二・三年次生を対象にした県内医療機関就職ガイダンスを1月に開催し、県内17施設の看護部長・卒業生等による各施設紹介、県保健医療課による保健師活動紹介、岐阜県看護協会による看護職の職能団体についての紹介が行われた。学生の参加者は、全体説明会85名(二年次生43名、三年次生42名)あり、また卒業生24名が自施設の担当者として説明を行った。さらには、8月の夏季休業期間中に二年次生を対象に「病院を知るプログラム」として、県内の病院を知るための現地研修会を実施した。2日間で県内4病院を巡るプログラムで45名が参加した。</p>  |          |          | <p>現地研修会は、2日間で4病院を巡るプログラムであるが、可能なら病院数の増加を検討されたい。</p> |
| 32       | <p>県及び諸機関と協働で保健医療福祉職の幅広い教養と専門職者としての今後の可能性等に関する</p>   | <p>専門職者としての幅広い教養と専門職としての今後の可能性に関する特別講義として「趣味と人生」をテーマに5</p>  |          |          | <p>岐阜県を学生にアピールする良い機会である。年間を通して自主的に参加できるように、</p>      |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |   |
|----------|---|---|----------|----------|---|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)                                 |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |   |
|          | 特別講義等を企画・運営し、学生が自ら抱く県内保健医療福祉施設等で働くイメージを高める機会を拡げる。   | 月26日(金)に開催した。一年次生全員が受講し、クラシック音楽とヨーロッパ古典絵画について豊かな学びを深めた。また、岐阜県の救急医療について、岐阜大学医学部付属病院長による特別講義を11月21日(火)に開催し、領域実習後の三年次生全員が受講し、救急医療体制の重要性と県内の救急医療の特性について学びを深め、関心を高めた。  |          |          | 企画できると、県内就職にも結び付く可能性があるため、検討されたい。       |
| 33       | 学生と県内に就職した卒業者が交流できる機会を「卒業者と在学生との交流会」として企画・運営するとともに、県内看護職者の実践改善への取り組みについての情報提供を行う。             | 学生が看護職者として働くことイメージを深めて、就職進路を選択する際の一助とするために、「卒業者と在学生との交流会」を11月22日(水)に開催した。第1部のシンポジウムと第2部の卒業者との交流会で構成し、第1部のシンポジストには、6名の卒業者を招聘した(看護師2名、保健師2名、助産師1名、養護教諭1名)。一年次から三年次の学生204名が参加し、卒業者との交流を行った。  |          |          | このような企画の積み重ねが県内への就職につながっていくことを期待する。     |
| 34       | 学外演習、領域実習及び卒業研究を県内医療機関等において継続的に実施することを通して、学生が岐阜県の保健医療福祉の課題について考え、自身の看護生涯学習の方向性と意義を考える機会とする。   | 学生が岐阜県の保健医療福祉の課題について考えることができるように、学外演習、領域実習及び卒業研究を県内保健医療福祉機関で行った(一年次学外演習:県内36施設40部署、三年次領域実習:県内104施設113部署、四年次卒業研究:県内36施設46部署)。  |          |          | 学外実習及び領域実習等は、大切な機会のため、引き続き充実させていただきたい。  |
| 39       | 専門看護師コースを含めた大学院修学ニーズ等に関する県内看護職の需要について関係機関と継続的に検討すると共に、専門看護師コースに関して、新制度の専門看護師38単位認定に伴う教育を開始する。 | 県内看護職者・看護管理者と多様な機会(人材育成に関する意見交換会、就職ガイダンス時の懇談会等)において、専門看護師コース(慢性・小児・がん)及び大学院修了者の需要について、意見交換を行った。<br>専門看護師の育成については、県内唯一であり、ニーズが高いと考えられ、平成28年度に申請し認定された38単位の新教育課程(慢性看護、がん看護)を開始した。また、平成29年度には新教育課程(小児看護)を申請し認定された。平成30年度からは、慢性看護・がん看護・小児看護の全てが新教育課程に基づく教育の実施となり、単位数が大幅に増えることから教員数・配置の適切性等について検討をすすめることとした。 |          |          | 専門看護師の育成を県内で唯一行っているため、今後も継続していただきたい。    |
| 45       | ファカルティ・ディベロップメント活動として、年度当初に教員個々のニーズを把握するとともに  | ファカルティ・ディベロップメント活動について年度当初に教員個々及び各委員会・部会のニーズを把握し、次の企画   |          |          | ファカルティ・ディベロップメント等の活動が活発であり、教員としての能力向上に努 |



| 通し<br>番号 | H29 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証  |                                       |
|----------|---|---|----------|---|---------------------------------------|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点   | 検 証 (案)                               |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |   |                                       |
|          | に、学生の主体的学修能力及び課題解決能力の育成、研究倫理に関する研修、及び看護実践研究の活性化等の研修を組織的に企画し、実施する。 | <p>を行い、ほぼ全教員が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育活動との関連を考える研修会—学生の特性を考慮した教育の工夫—」(平成29年9月6日、参加率92.1%)</li> <li>・「看護実践指導事業のこれからを考える研修会」(平成30年3月7日、参加率92.2%)</li> <li>・「学外交流報告会：“地域貢献活動”をテーマとした長野県看護大学との交流」(平成30年3月7日、参加率90.2%)</li> <li>・「外部研究資金応募に向けた研修会」(平成29年9月6日、参加率100%：定員設定)</li> </ul> <p>新任教員は、自己の実践経験(3年以上)をふまえ、学生の実習指導における教員資質を高めるため、実習指導開始前に臨地実習施設において4～5日の研修を行うとともに、実習指導初期は講師以上の教員のもとで実習指導を担当し、看護職としての感性及び看護学教員としての感性を一層豊かにし、学生指導ができるように自己研鑽を行った。</p> |          |   | めていることは評価できる。                         |
| 50       | 理事会・経営審議会及び教育研究審議会の意見を反映し、効果的な大学運営を行う。                            | <p>定期開催(6月、3月)のほか9月、10月、12月、2月にも理事会・審議会を開催し、大学運営に対する意見を拝聴した。(理事会5回、経営審議会6回、教育研究審議会3回開催)</p> <p>適時、理事会・審議会を開催して意見聴取に努めており、計画どおり実施できた。</p>  | III      | <p>評価の検討<br/>III→IV</p> <p>定期開催のほか、適時理事会等開催して、意見聴取に努めている。</p> <p>IIIのまま</p> <p>理事会・審議会等計画どおり実施した。</p> | <p>III</p> <p>理事会・審議会等計画どおり実施した。</p>  |
| 53       | 「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」の実績を継承し、県内看護職者等の代表者からの意見を大学運営に十分反映させる。      | <p>「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」を開催し、看護活動及び人材育成に関する課題の把握と今後の取組みに向けての意見交流を行った(7月3日開催 委員数9名のうち8名参加)。いただいた意見について議事録を作成し、大学HP上で公開した。</p> <p>継続的な取組により県内看護職の意見や現場における課題等の把握に努めており、計画どおり実施できた。</p>   | III      | <p>評価の検討<br/>III→IV</p> <p>常に意見や課題の把握等に努めている。</p> <p>IIIのまま</p> <p>継続的に取り組み、計画どおり実施した。</p>            | <p>III</p> <p>継続的に取り組み、計画どおり実施した。</p> |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証   |   |
|----------|--|---|----------|--|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点  | 検 証 (案)   |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |  |   |
| 55       | 監事（公認会計士）の協力のもと、内部監査を確実に行うことにより、客観的な視点を活かし、業務運営の充実を図る。 | 9月26日に、監事（公認会計士）の協力のもと、科学研究費の執行に関する内部監査を実施し、今後の執行業務における一層の適正化を図った。  | III      | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価の検討</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">III→IV</div> 内部監査を実施し、執行業務の適正性の確保に努めている。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">III</div> 昨年度に継続して行い、計画どおり実施した。 |
|          |  | 監事（公認会計士）の協力のもと、継続して内部監査を実施しており、計画どおり実施できた。   |          |  |   |
| 56       | 教員の教育研究環境の充実のため、サバティカル研修制度の試行を始める。                     | 平成30年度の研修実施に向けて、候補者の選定、研修計画の承認を行った。   | III      |  | 新たな研修制度の開始に向け、着実に計画を実行していることは評価できる。   |
|          |  | サバティカル研修制度の試行を始め、候補者の選定等を行っており、計画どおり実施できた。  |          |  |   |
| 61       | 事務職員のプロパー化計画と並行して、職員体制の再構築に向けた検討を進める。                  | 契約職員の無期雇用転換への制度移行に伴い、職員体制の再構築に向け契約職員の事務体系の見直しを行った。  | III      |  | 大学事務職員のプロパー化計画については、引き続き努力されたい。   |
|          |  | 事務職員の半数を占める契約職員のあり方を再検討し、職員全体の体制見直しに波及させることとした。<br>今後は大学の改善、改革が喫緊に求められる中で大学運営に果たす事務職員の専門性を強化するための体制の見直しをすることが求められる。<br>事務局において企画部門を強化し、大学の改善改革を推し進める。 |          |  |   |
| 62       | 少人数体制の下、業務の効率化、簡素化に努める。                                | 業務の引き継ぎが円滑に行えるよう、契約職員の業務マニュアルを作成した。   | III      |  | 少人数体制における業務の効率化に努めていることは評価できる。  |
|          |  | 少人数体制の下、業務の効率化に努めており、計画どおり実施できた。  |          |  |   |
| 63       | 長期財政計画の策定に向け、骨子・考え方をまとめる。                              | 長期財政計画の策定に向け、本学の財政面における課題を整理した。   | III      |  | 消費税問題は全国共通の課題のため、他大学とも連携して対策を講じていただきたい。   |
|          |  | 運営費交付金が毎年度減額されていることや、少子化の進展により検定料収入等自己財源の大幅な増収は難しいことから、今後、ますます予算編成が困難な状況となる。<br>適切な長期財政計画を策定するため、次年度において、中期計画期間にとらわれない長期的な収支見通しを推計し                   |          |  |   |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証  |         |
|----------|--|--|----------|---|---------|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価 | 論 点   | 検 証 (案) |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |          |   |         |
|          |  | たうえて、財政基盤の充実・強化に向けた取組方策を検討していくこととする。   |          |   |         |
| 64       | <p>文部科学省科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた申請を積極的に行う。</p> <p>各種助成金の情報収集に努める。</p> | <p>科学研究費助成事業に係る申請等について周知するとともに、外部資金応募に向けた研修会を実施（9月6日）し、科学研究費補助金について8件の新規申請を行った。各種研究助成に関する公募情報をメールで29件提供するとともに、一覧を共有フォルダーに掲示した。</p> <p>外部研究資金への応募及び採択を支援するための取組を継続して行っており、計画どおり実施できた。</p> | III      | <p>評価の検討<br/>III→IV</p> <p>8件の新規申請をし、外部資金の獲得に積極的に取り組んだことは評価できる。</p> <p>IIIのまま</p> <p>支援のための取り組みを継続している。</p> | IV      |
| 66       | <p>執行状況に応じて、予算を適正に配分する。</p>  | <p>当年度予算の有効活用のため、各予算執行担当者へのヒアリングにより執行見込額の確認を行い、予算補正を4回にわたって行った。</p> <p>執行状況に応じて適正に予算配分しており、計画どおり実施できた。</p>   | III      | <p>評価の検討<br/>III→IV</p> <p>4回の予算補正は適正な予算配分に努めている。</p> <p>IIIのまま</p> <p>計画どおり、適正に予算補正を行った。</p>               | III     |
| 68       | <p>資金運用基準に基づき、余裕資金を適正に運用する。</p>                                    | <p>余裕資金を適切に運用するため、一部を短期定期預金（金額：5,000万円、期間：3ヶ月、利率：年利0.01%）にて運用した。</p> <p>余裕資金を適正に運用しており、計画どおり実施できた。</p>   | III      |   |         |
| 70       | <p>公益財団法人大学基準協会による第3回目の機関別認証評価を受審し、業務の改善に繋げる。</p>                  | <p>大学基準協会による第3回目の大学評価（認証評価）を受審し、申請資料に対する質問事項への回答書作成や評価員による実地調査に対応するとともに、自己点検・評価を通じて業務の改善に繋げた。評価の結果、同協会が定める大学基準に適合していると認定された。</p> <p>認証評価を受審し、業務の改善に繋げることができ、計画どおり実施できた。</p>              | III      | <p>評価の検討<br/>III→IV</p> <p>7年に一度の認証評価で、業務改善に取り組み、大学基準に適合していると認定されたことは評価できる。</p>                             | IV      |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証  |   |
|----------|--|--|----------|---|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価 | 論 点   | 検 証 (案)   |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |          |   |   |
|          |  |  |          | Ⅲのまま<br>年度計画どおり受審し、業務の改善に繋げているといえる。   |   |
| 71       | 大学ホームページ等を活用し、大学の行事・研究成果等幅広い情報を積極的に発信する。                     | 毎週開催する管理運営会議においてホームページの掲載内容を確認し、大学の行事等をタイムリーに公開するようになったところ、アクセス数が増加した。<br>積極的な情報発信に努めており、計画どおり実施できた。   | Ⅲ        |   | ホームページのアクセス数がさらに増加するように引き続き、積極的な情報発信に取り組んでいただきたい。 |
| 76       | 現有の施設、設備等の適切な維持管理により、有効な活用を図る。                               | 屋上立上部シーリング打替工事や、エレベーターホール2階・玄関屋根漏水補修工事の他、研究棟ピロティ天井改修工事など、施設、設備等の修繕・更新工事を適宜行った。<br>適切な維持管理により、有効な活用を図っており、計画どおり実施できた。   | Ⅲ        | 評価の検討<br>Ⅲ→Ⅳ<br>具体的に補修、修繕等が行われている。<br>Ⅲのまま<br>計画どおり修繕等、維持管理を行っている。                          | Ⅳ<br>計画どおり修繕等、維持管理を行っている。                         |
| 79       | 学校感染症等の発生時には、健康・安全管理特別会議により迅速かつ適切な対応を図る。<br><br>AED講習会を企画する。 | 同一学年でインフルエンザに感染した生徒が3名以上に達した時は、迅速に健康・安全管理特別会議を開き、感染防止に努めた。(平成30年1月12日)<br><br>消防署職員を講師に招き、AED講習会を実施(6月7日)した。<br><br>健康危機管理の組織的な取組ができる体制を継続して推進しており、計画どおり実施できた。     | Ⅲ        |   | 迅速な対策ができるよう学内の感染対策マニュアルを検討されたい。                   |
| 83       | ハラスメントに関する研修会を継続して開催するとともに、学内及び学外の相談員による相談体制を充実させる。          | ハラスメントに対する認識を深めるため、教職員及び学生に対し、外部講師による研修会を実施した。(学生向け：平成29年5月17日、教職員向け：平成30年3月15日) また、カウンセラー(臨床心理士)に学生・教職員向け外部相談員として依頼し、相談体制を整備した。<br>ハラスメント対策を継続して行っており、計画どおり実施できた。 | Ⅲ        | 評価の検討<br>Ⅲ→Ⅳ<br>ハラスメント対策や相談体制の整備等、きめ細かく取り組んでいる。<br>Ⅲのまま<br>継続してハラスメントの対策やサポート体制の充実に取り組んでいる。 | Ⅳ<br>継続してハラスメントの対策やサポート体制の充実に取り組んでいる。             |

| 通し<br>番号 | H29 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |  |
|----------|--|---|----------|----------|--|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 | 論 点      | 検 証 (案)  |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |  |
| 84       | <p>本学における研究倫理ガイドラインを教職員で共有する。文部科学省科学研究費補助金等の外部資金による研究費に関し、研究代表者を対象にした研修会を開催する。</p> | <p>ファイル共有サーバーに研究倫理規程集をアップロードし、教職員が常に確認することが出来るようにした。<br/>これまで未実施だった科研費研究分担者を対象とした説明会を実施し、科研費の執行等を焦点に、適切な研究実施を促すための研修を実施した。(第1回：11月24日、第2回：12月22日)</p> | Ⅲ        |          | <p>新たに説明会及び研修を実施し、研究倫理規範を保持する取り組みを行ったことは評価できる。</p> |